

科研参加メンバーによって、各人の研究課題のとりまとめを PRA の手法を用いて行った。その結果は次の通りである。

1. グローバル問題特性（7：ポイント数） グローバル・イシューの重要性そのものの指摘にとどまらず、アジア諸国における問題の指摘とその解決に向けた具体的取り組み、及び組織的な連携強化と実践モデル構築へ向けた提言。
2. 過疎の実態（5） 人口減少と都市圏の拡大の指摘と実態調査に向けた具体的活動の途中経過、及び問題理解に対する多様性と当事者的理解の重要性の指摘。
3. 気象災害と災害教育（4） 災害の歴史性に焦点を当てたデータ発掘とその情報の共有と防災教育の重要性の指摘。
4. 農業離れ・土地利用・技術（4） 農業をはじめとする生業・土地利用の歴史的变化と地域的・民族的な差異の比較についての提言。
5. 農業技術と環境保全（4） 農業技術の選択背景と実践的農業技術の体系化の重要性及び農業生態区分における環境保全と農業技術の再評価についての提言。
6. 医療と高齢者問題（1） 村人の生活習慣変化から見える医療と高齢者問題の指摘。

以下に各人が PRA に用いたキーワード、第一段階のとりまとめ、最終とりまとめを示す。

安藤①大学の実践モデル

安藤②日本の過疎農業問題のグローバルイシュー化

安藤③バングラデシュの予備的調査完了

大西①ミャンマーの身近な水田利用による価値再発見

身近な資源の利用の認識を通じた農村の価値再発見

大西②マングローブ域の野生動物保全と村おこし

絶滅危惧のカワウソとの共存。エコツアー。

大西③保津の価値発掘による町おこし活動

南出①過疎・離村問題の当事者(若者)的理解。

バングラ農村出身者の都市生活調査。個人の意思の問題。

南出②農村全戸調査のフォーマットづくり

客観的な通社会調査のための準備。

南出③ブータンWSにおける日本の過疎問題の国際共有

他地域と問題共有することで過疎の本質に気づく。

鈴木①日本の焼畑実践者間の連携強化

同時多発的な焼畑復活の動き。焼畑フォーラム。

鈴木②焼畑実践から学ぶ当事者的在来知体系化

毎年条件が変わる。失敗して分かることある。技術の伝承。

鈴木③ミャンマーの焼畑地GPS調査の15年間分まとめ

林③英領期気象データの発掘

インドは整備済み。バングラ、ミャンマー。災害履歴。

宮本①人口減少と都市圏の拡大

小規模鉱山の閉山にともなう地域への影響

宮本②災害の歴史性(南アジア)

歴史的にみる土地開発と災害の多発

宮本③土地開発プロセスの地域間対比

矢嶋①村落コミュニティ形成としての

伝統文化の再評価・保存

当事者的視点と大学研究者の意識。

内田①グローバルイシューの重要性

世界に発信するホームページづくり

内田②過疎問題理解の多様性

ブータン、ミャンマー人で興味の対象が違う

内田③農家の品種選択の背景

取捨選択の主体性。ベンガル人の創意工夫

浅田①農業土地利用と担い手の変化

浅田②生業変容と出稼ぎの民族間差異

浅田③村人の生活習慣変化

浅田③村人の生活習慣変化

浅田③村人の生活習慣変化

林①気象災害に関する防災教育

ダッカ、マイメンシン。IITG, NEHU, テズプル大

林②気象情報の共有。気象と災害の地域比較

BMD, IMD。ひまわり8号の情報。観測技術。

過疎

安藤③バングラデシュの予備的調査完了

南出②農村全戸調査のフォーマットづくり

浅田③村人の生活習慣変化

価値再評価

矢嶋①村落コミュニティ形成としての伝統文化の再評価・保存

大西①ミャンマーの身近な水田利用による価値再発見

大西②マングローブ域の野生動物保全と村おこし

鈴木①日本の焼畑実践者間の連携強化

グローバル

安藤②日本の過疎農業問題のグローバルイシュー化

南出③ブータンWSにおける日本の過疎問題の国際共有

内田①グローバルイシューの重要性

大西③保津の価値発掘による町おこし活動

宮本①人口減少と都市圏の拡大

浅田①農業土地利用と担い手の変化

林②気象情報の共有。気象と災害の地域比較。

大学

安藤①大学の実践モデル

土地履歴

宮本③土地開発プロセスの地域間対比

鈴木③ミャンマーの焼畑地GPS調査の15年間分のまとめ

当事者性

南出①過疎・離村問題の当事者(若者)的理解
鈴木②焼畑実践から学ぶ当事者的在来知の体系化

内田②過疎問題理解の多様性

内田③農家の品種選択の背景

浅田②生業変容と出稼ぎの民族間差異

災害

宮本②災害の歴史性(南アジア)

林①気象災害に関する防災教育

林③英領期気象データの発掘

1)気象災害と災害教育

宮本②災害の歴史性(南アジア)

林①気象災害に関する防災教育

林③英領期気象データの発掘

林②気象情報の共有。気象と災害の地域比較

2)過疎の実態

安藤③バングラデシュの予備的調査完了

宮本①人口減少と都市圏の拡大

南出①過疎・離村問題の当事者的理解

南出②農村全戸調査のフォーマットづくり

内田②過疎問題理解の多様性

3)農業離れ・土地利用・技術

宮本③土地開発プロセスの地域間対比

浅田②生業変容と出稼ぎの民族間差異

浅田①農業土地利用と担い手の変化

鈴木③ミャンマーの焼畑地GPS調査の15年間分まとめ

4)医療と高齢者問題

浅田③村人の生活習慣変化

5)農業技術と環境保全

内田③農家の品種選択の背景

鈴木②焼畑実践から学ぶ当事者的在来知体系化

大西②マングローブ域の野生動物保全と村おこし

大西①ミャンマーの身近な水田利用による価値再発見

6)グローバル問題特性

安藤①大学の実践モデル

安藤②日本の過疎農業問題のグローバルイシュー化

南出③ブータンWSにおける日本の過疎問題の国際共有

内田①グローバルイシューの重要性

大西③保津の価値発掘による町おこし活動

鈴木①日本の焼畑実践者間の連携強化

矢嶋①村落コミュニティ形成としての伝統文化の
再評価・保存